

通風と採光に配慮した、 地域の風土と風習から生まれた家

所在地:長野県諏訪市
 設計:総合:眞田大輔+名和研二/すわ製作所
 構造:眞田大輔+名和研二/すわ製作所
 施工:マル和建設
 構造/規模:木造/平屋建
 面積:(敷地)463.12㎡
 (1階)92.16㎡
 (延床)92.16㎡

屋根の構成:シート防水
 ネオマフォームt50
 構造用合板t24
 オイルフィニッシュ
 垂木38×180@303
 オイルフィニッシュ



リビングからダイニング方向を見る

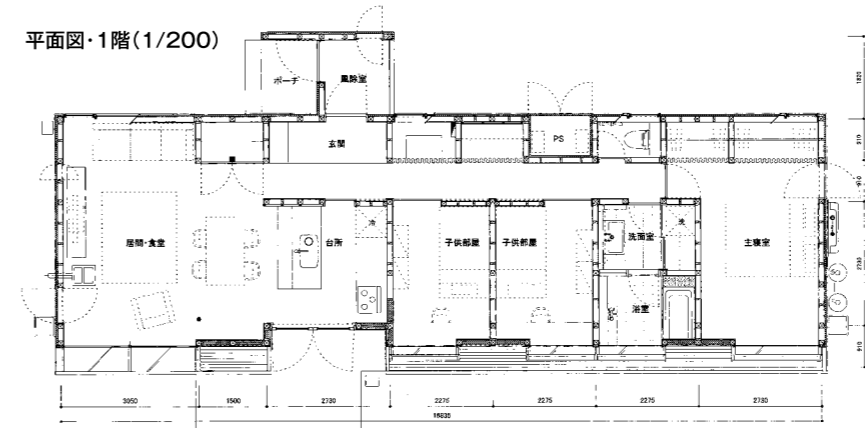
住宅について

敷地は長野県の諏訪市に位置し、冬場はマイナス10度を下回る寒冷な地だが、夏場は湿度が低く過ごしやすい地域である。この敷地の特性から、冬場の暖房と夏場の低湿度の涼風を利用した、自然エネルギーを利用した家づくりを目指した。その特徴として、冬場の暖房に太陽熱を積極的に活用するため、建物南側のガラス面を傾斜させ、部屋の奥まで太陽光が届く様にした。夏期には傾斜した南側外壁に沿って流れて来る涼風をつかまえる、オリジナルの滑り出し窓を設けた。結果、冬場の暖房費は前住宅の約半分となり、夏場は涼風のみで過ごす、自然の力を生かした家が完成した。

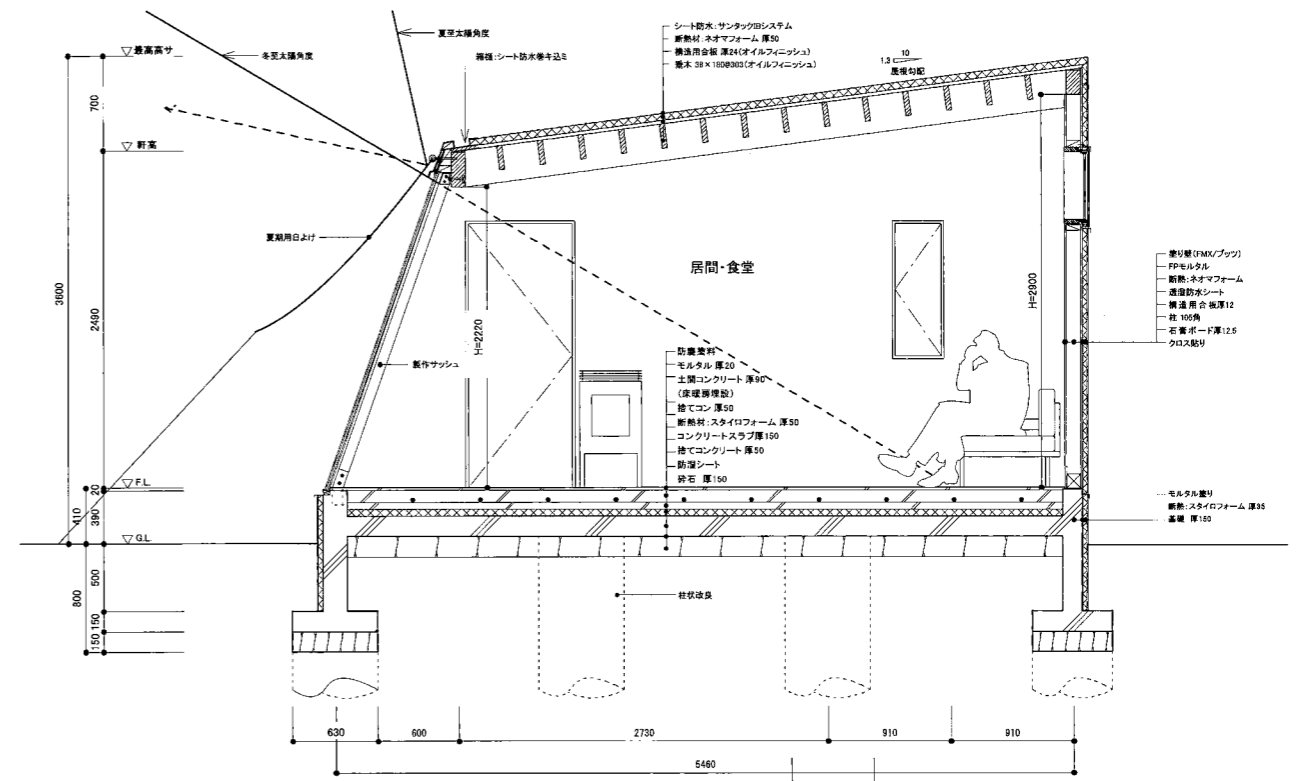
屋根と合板について

本物件は、南側壁面を30度程度空に向けて傾けた点に特徴を持つ木造平屋の専用住宅である。基本型である台形フレームを不等ピッチに配置し、それらを耐力壁面としてつなげる部分、窓として開放する部分を繰り返し設けることで全体を構成した。斜面部分も構造用合板の汎用性により一般的な在来軸組構法で対応することができ、耐力壁は、厚さ9mmの構造用合板を採用し水平力を、屋根構面ははりに厚さ24mmの構造用合板を採用し水平剛性を確保した建物である。

平面図・1階(1/200)



断面詳細図(1/50)



冬の太陽が部屋奥まで差し込む



洗面所前の廊下からリビング方向を見る



建物外観